



# 明野ふくろう便



明野中央病院広報誌 | vol.9  
日本医療機能評価機構 認定病院

医療界も暗いことが多い1年でした。昨年4月から後期高齢者医療制度が施行されましたが、この制度が単なる高齢者の切り捨て政策、医療費抑制政策であることが露見し、1

医療界も暗いことが多い1年でした。昨年4月から後期高齢者医療制度が施行されましたが、この制度が単なる高齢者の切り捨て政策、医療費抑制政策であることが露見し、1

新年あけましておめでとうござい  
ます。平成21年の新春を迎え、皆様  
にお慶びとともに一言ごあいさつ申  
し上げます。



院長 木下 昭生

## 新年のごあいさつ

年を待たず見直しを余儀なくされて  
います。また、東京などの大都市  
でさえ救急医療が破綻している事  
実や、全国各地での公立病院の閉鎖  
など数年前から進行していた医療  
崩壊が一気に目に見えてきた1年で  
した。度重なる国の医療介護政策の  
失敗のため、医療現場は医師不足、  
看護師不足、介護現場は介護士不足  
に苦しみ、医療難民・介護難民とい  
う形で国民に多くの犠牲を強いる  
結果となりました。これらの現実にも  
もかわらず、国は社会保障の伸び  
を毎年2200億円抑制する骨太  
の方針を維持することを決定する一  
方、道路財源の一般財源化をなし崩  
しにし、公共事業の活性化を進めよ  
うとしています。国家のビジョンが、  
「社会保障」より「道路舗装」が大事、  
ヒトよりモノが大事というのではあ  
まりにも悲しいと思います。

さて、厳しい現実の中で新しい年  
を迎えました。当院の今年の目標と  
して、この限られた医療環境の中で  
二つのことを実践したいと考えてい  
ます。①地域密着型医療（地域に根  
ざした医療）の実践です。自治会や  
ボランティアの方々など、地域のご  
意見を積極的に取り入れ、より皆さ  
まに親しまれる病院になること。

今年も明野中央病院をどうぞよ  
ろしく願っています。



綿の木にできた真っ白なワタ



▲可憐な草花に癒される～

11月7日(金)、2階ウッドデッキテ  
ラスにてガーデンティーパーティーを  
ボランティアの会主催で開催しまし  
た。日頃、ボランティアの方がお世話  
をしている花壇の草花を觀賞しなが  
らのお茶会です。  
花壇に植えられた綿の木には真っ  
白な綿ができており、初めて見て感激  
している方もいました。  
可憐な秋の草花をながめながら、入  
院患者さん、お見舞いの方、近隣の方  
も参加して、コーヒーや抹茶を飲みな  
がら楽しい時間を過ごしました。

## ティーパーティー＆ボランティアの息

火の用心！～防火訓練を実施～  
空気が乾燥する季節。防火訓練を  
行いました。職員の少ない夜間帯での  
火災を想定し、通報装置の取扱いや、  
患者さん  
の避難誘  
導の確認、  
消火器・  
消火栓の  
取扱い等  
を確認し  
ました。



▲ 消火訓練。火の元にはくれくれもご注意を！

11月9日(日)、第18回大分県リハ  
ビリテーション医学会が大分大学医  
学部にて行われました。  
当院作業療法士の安部奈緒子が「複  
合損傷により重度の拘縮手を呈した  
1症例」  
作業療法  
を通して  
の効果」  
と題して  
発表しま  
した。



▲ 作業療法士、安部の研究発表

## 大分県リハビリテーション医学会で発表

I N F O R M A T I O N		病院理念
診療科目	受付時間	医療・介護を通じ、 患者さんの生活の質の向上に努める
内科・外科・消化器科・肛門科 リウマチ科・整形外科・形成外科 リハビリテーション科	月曜日～金曜日 8:30～11:30 14:00～17:30 土曜日 8:30～11:30 日曜日・祝祭日 休診	基本方針
		<ul style="list-style-type: none"> <li>一、家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます</li> <li>一、地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます</li> <li>一、患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます</li> <li>一、たえず医療・介護の質の向上に努めます</li> <li>一、地域の健康増進・病気の予防に努めます</li> </ul>

医療法人社団 唱和会  
**明野中央病院**  
 日本医療機能評価機構 認定病院

発行日 2009年1月  
 〒870-0161 大分市明野東2丁目7番33号  
 TEL 097-558-3211 (代表) FAX097-558-3709  
 E-mail akenohp@fat.coara.or.jp  
 http://www.coara.or.jp/~akenohp



## 明野中央病院健康セミナー 高橋淳さんを迎えて

10月18日(土)、あけのアクロスタウンアクロスホールにて、日本飛行連盟名誉会長、高橋淳さんを迎えて、「華麗なるヒコキ野郎淳さんのおおぞら人生、俺流。」と題し講演会を開催しました。



▲ 淳さん、オシャレなスーツで爽やかに登場

高橋さんは、大正11年生まれの現在86歳。現役最高齢のプロパイロットです。18歳で予科練に入隊、海軍航空隊で徹底的に訓練を受け、激戦の南方戦線を転戦、敗戦濃厚な沖縄戦にも鹿児島出水から飛び立ちました。同期の8割5分が戦場で尊い命を失いました。戦後は、日本飛行連盟に参加し、民間操縦士の養成を行うかたわら赤十字飛行隊長として災害時の救助、血液輸送などのボランティアに従事。阪神・淡路大震災、新潟県中越沖

地震にも飛行隊を派遣しました。現在も、日本飛行連盟の顔として、また、スーパーテクニクパイロットの第一人者として、多忙な毎日を送っています。



▲ たくさんのご参加をいただきありがとうございました。

講演会には明野地区の方々を中心に約350名のご参加をいただきました。ご参加の皆さんは、淳さんの年齢を全く感じさせない、パワフルでスマートでユーモアあふれるお話を声を上げて笑ったり、真剣な目でうなずいたりしていました。会場からも「歯は丈夫ですか?」「食事で気をつけていることは?」「睡眠は何時間ぐらい?」などの質問もあり、ステージと会場が一体となったアットホームな会となりました。



▲ 淳さんを囲んで、院長、副院長も参加して座談会

## 回復期リハビリテーションの美力 重症患者回復病棟の基準クリア



日本リハビリテーション医学会専門医 副院長 中村 英次郎

当院の3階は、「回復期リハビリテーション病棟(30床)」です。リハビリテーションの専門病棟として、発症直後の急性期治療を終えて間もない患者さんのリハビリテーションに特化しています。このような病棟は、制度としては平成12年より始まったものであり、医療機能分化、地域医療連携の考え方のもとに急速に普及していきまされた。大分県内でも多くの施設が開設されています。

昨年4月に診療報酬改正が行われ、回復期リハビリテーションの評価が2つに分かれました。①患者の重症度、②重症患者の回復実績、③退院後の自宅復帰率(他の病院に転院せず、自宅に帰った割合)で評価され、一定の基準をクリアしている施設としてい

い施設で評価に差が生じてきました。つまり、同じ回復期リハビリテーション病棟でも、「重症の患者さんを受け入れて、リハビリの効果をきちんと出して、ご自宅に復帰させる」という実績が問われることになったのです。脳卒中や大腿骨頸部骨折の「地域連携クリティカルパス」も新たな取り組みとして評価されています。

当院は、これらの基準をクリアし、回復期リハビリテーション病棟入院料1(重症患者回復病棟加算)に認められました。

今後とも、患者さん一人ひとりに最も適したリハビリテーション医療に、科学的に情熱をもって取り組むことで、患者さんの生活の質の向上に貢献することが私たちの使命と考えています。



## 大分県病院学会で研究発表

11月24日(月)、別府市ヒーコンプラザにて第26回大分県病院学会が開催され、当院看護部より一般演題として2題の発表を行いました。外来部門より「入院時オリエンテーションの円滑化をめざして」と題して、入院時の作成書類や案内パンフレットの改善、患者説明の統一などを図り、入院時のオリエンテーションを円滑、効率化したことの取り組みについて発表しました。2階病棟より「ゆびさし呼称を用いた危険因子の除去」と題して、病室のベッド周辺の安全管理に関して、心電図モニターの配線やコード類の絡まりの改善のための指差し呼称を取り入れた取り組みについて発表しました。



▲ 2階病棟看護師、武藤、溝部の研究発表

## 糖尿病相談会

秋季恒例となってきました、糖尿病相談会運動療法編は「めじろんにつづけ」と題し11月8日(土)に行いました。あいにくの雨の為、室内での開催となりました。糖尿病の運動療法は、必要といわれながら最も実践しにくい治療方法です。しかしながら、上手に生活に組み込むことで、糖尿病改善効果に大きな期待が持てます。こうした会を通じて、皆さんと楽しく運動療法について学んで行きたいと思えます。

クイズやゲームも取り入れて楽しく学びます。



▲ 健康運動指導士による運動指導。みんなで爽やかに汗を流しました。



## メタボリックシンドローム予防対策

11月13日(木)、大分県医師会館にて第9回豊の国産業保健フォーラムが大分産業保健推進センターの主催で行われました。今回は「メタボリックシンドロームの多面的予防対策」をテーマに行政、医師、保健師、管理栄養士がそれぞれの取り組みを発表しました。

基調講演として、大分大学医学部社会心理学講座教授の上野徳美先生が「メタボ対策と健康心理学」と題して講演しました。その後パネルディスカッションが行われ、当院院長の木下昭生が産業界の立場から「メタボと糖尿病の予防」をテーマに発表しました。糖尿病の合併症、動脈硬化のメカニズム、糖尿病増加の実態、日本人の生活の変化、運動療法のポイントなどについて説明しました。



▲ 講演する木下

## クリスマス会を開催

12月6日(土)、ボランティアの会主催による毎年恒例のクリスマス会を開催しました。「フラダンス」「踊り」「民謡」「ひよっとこ踊り」など、地域の趣味の会やサークル団体の方々が出演。これは全てボランティアの会が中心となり、企画・出演交渉をしました。入院患者さんやそのご家族らが体を動かし、心を動かして素敵なクリスマスのひと時をすごしました。皆さまのご協力に心から感謝を申し上げます。



▲ 南の島のクリスマス? にぎやかにアロハ〜



▲ 子供たちのかわいいひよっとこ踊りに拍手喝采

